

皆さんが納めた税金や国・県からの支出金、地方交付税は、どのように使われたのでしょうか？昨年度の南国市の収入と支出についてお知らせします。

平成29年度の
決算報告

南国市の家計簿

歳出

歳出総額は、205億4千453万2千円で、前年度決算額に比べて12億257万円（5.5%）の減額となっています。

性質別歳出の状況は、義務的経費のうち人件費は、退職手当などの増により、8千950万7千円（2.8%）の増額となりました。

扶助費は、年金生活者等支援臨時福祉給付金事業費などの減により、6千811万5千円（1.1%）の減額となりました。

公債費は、1億87万7千円（5.1%）の減額となりました。

投資的経費は、前浜地区防災拠点施設建設事業費などの減により、11億7千702万2千円（30.9%）の減額となりました。

物件費は、給食センター運営事業費などの増により、1億8千423万9千円（7.4%）の増額となりました。

下水道事業が公営企業法の適用となったことなどにより、補助費等は、1億9千889万3千円（15.3%）の増額、繰出金は、1億8千818万5千円（8.0%）の減額となりました。

積立金は、地域福祉基金積立金などの減により、1億7千442万6千円（61.0%）の減額となっています。

総括

6億3,138万9千円の黒字、借金である地方債借入残高は増加

南国市の平成29年度普通会計の決算状況は、歳入が213億5,850万5千円、歳出が205億4,453万2千円で、歳入歳出差引額は8億1,397万3千円となりました。翌年度への繰り越し財源1億8,258万4千円を除くと6億3,138万9千円の黒字となります。

また、歳入の根幹をなす市税総額は3,976万7千円の増額となり、地方交付税は3億1,008万3千円の減額、臨時財政対策債は3,371万8千円の増額となりました。

地方債借入残高は、平成29年度末残高188億2,472万8千円、3億975万8千円（1.6%）の増となっています。

財政構造の弾力性を示す経常収支比率は92.4%と2.2ポイント増加し、財政の硬直化が進んでいます。

今後も、公債費負担適正化計画などにより、健全な財政運営確立に向け行財政改革を進めていきます。

歳入

歳入総額は、213億5千850万5千円で、前年度決算額に比べて12億1千961万5千円（5.4%）の減額となりました。

市税では、市民税113万9千円、固定資産税6千22万7千円、軽自動車税717万2千円の増額となり、市たばこ税2千842万4千円の減額となり、税収全体では3千976万7千円（0.7%）の増額となりました。

地方交付税は、3億1千8万3千円（7.2%）の減額となりました。

国庫支出金は、学校施設環境改善交付金などの減により、5億1千110万円（11.9%）の減額となりました。

県支出金は、木材加工流通施設等整備事業費補助金などの減により、4億5千50万8千円（20.3%）の減額となりました。

地方債は、防災拠点施設整備事業債などの減により、2億7千378万2千円（11.7%）の減額となりました。

用語解説

●普通会計とは？

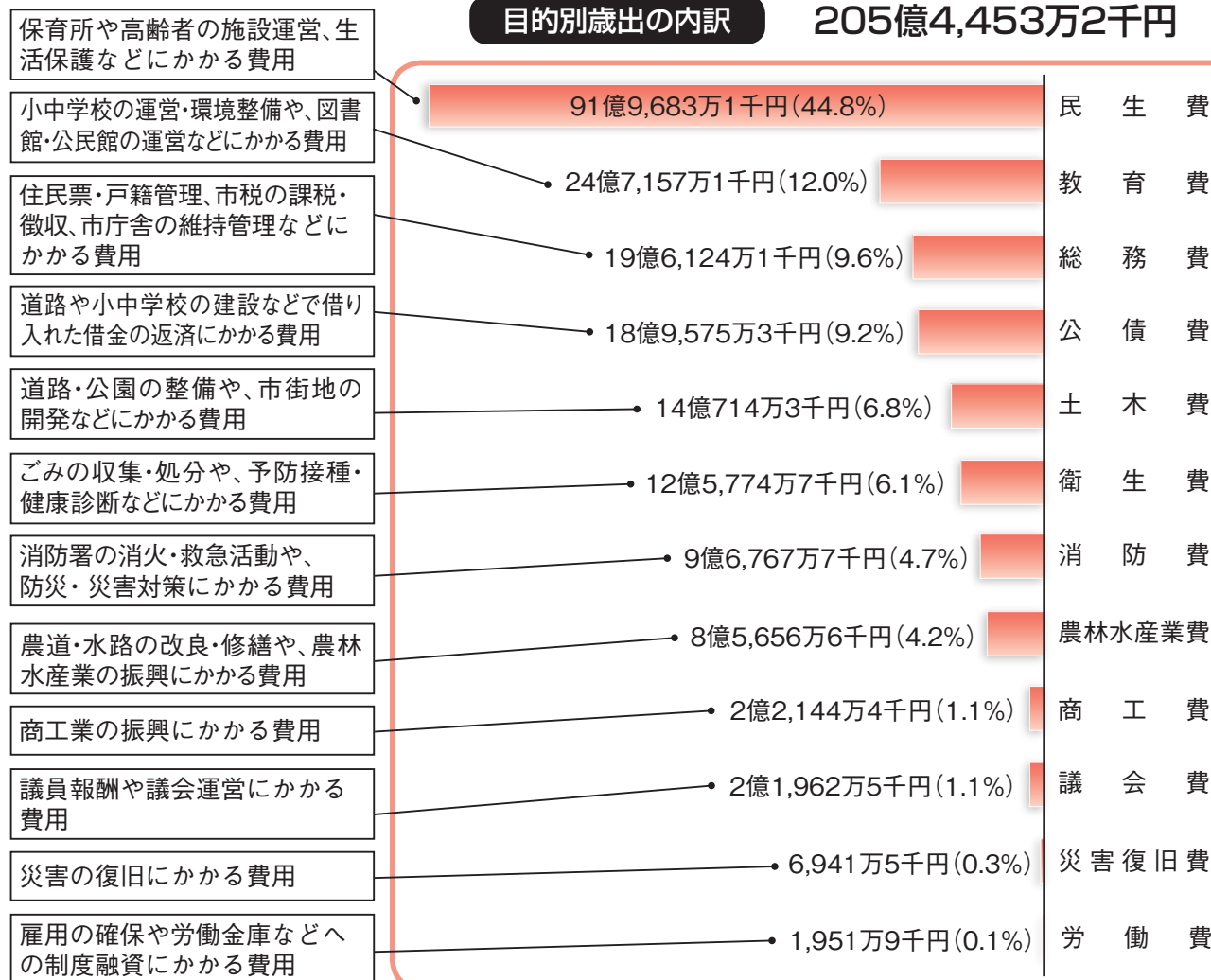
一般会計・住宅新築資金等貸付事業特別会計・土地取得事業特別会計の合計額から、繰り入れや繰り出しなど、会計間の重複額を控除した統計上の会計区分です。

●経常収支比率とは？

地方税や普通交付税などの経常一般財源収入のうち、人件費や扶助費、公債費など毎年度経常的に支出される経費にどれだけ充当されたかを示すもの。比率が高いほど、財政構造の硬直化が進んでいることを表します。

目的別歳出の内訳

205億4,453万2千円



歳入の内訳

213億5,850万5千円

